

総会後の公開講演会での奈良県立図書情報館長 千田稔先生の講演要旨を紹介します。

## 桜井に宮をおいた天皇

崇神天皇・雄略天皇・欽明天皇・用明天皇

### 【崇神天皇】

神武天皇は初代の天皇であり、神武天皇から開化天皇まで『日本書紀』や『古事記』でも名前だけで仕事の記録がなく欠史八代といわれている。初代天皇は次に現れた崇神天皇と二人いることになる。あえて言えばこれは別の勢力があり、この勢力に代わって崇神天皇が桜井に新しく現れたと考えられる。箸墓はいろんな名前が付けられており築造は、3世紀半ばころ卑弥呼が出てきた時期に近く、邪馬台国の卑弥呼と関連した墓であることは間違いない。大和王権発祥の地ということで、これは桜井市にとって有利で、三輪山の地域は世界遺産としての価値がある。

『日本書紀』では崇神天皇のことをミマキイリヒコイニエノスメラミコトといわれており、ミマキとは三輪山のことで、イリとはイリ王朝のことで、よそから来たという意味で欠史八代のあと新しくやってきたということであろう。

崇神天皇十年記には箸墓のことが書いてあるが、女王卑弥呼がどういう形で現れたかについては、九州説や大和説等いろいろあるがいくら発掘してもわからない。単純に考えるべきで、卑弥呼は神がかり的な人であり、自分が神として近づける場所に自分を置いてほしいと、希望を出し三輪山が選ばれた。ここが倭の国首都となり、出雲の大物主も三輪山に祀られており、こんな場所は北九州や岡山をはじめ日本中どこを探しても三輪山以外のどこにもない。邪馬台国は三輪山の周辺にあったと結論づけるべきである。

崇神天皇は『日本書紀』によると、大変まじめな人で、自分の代になってから病氣や災害が起こる、自分に徳があるかどうか天皇として大事なことであるが、どうしたらうまくいくかと 大いに悩んだ。現在でも大臣が辞職するとき、不徳の致すことであるとよく言うが徳が重視されていた。そこへ大物主の子供のオオタタネコが来ておさまった。

オオタとは朝鮮系統の渡来地の名称であることが多く、5世紀の後半、いまの泉北ニュータウンに須恵器の大製作所があり、その中にオオタタネコがいたので呼んできた。

卑弥呼自身が持っていた宗教的能力は、鬼道で中国の道教的宗教に関係する。鬼神という死者の霊を祀るのにもっとも適当なのは三輪山の周辺であった。

### 【雄略天皇】

雄略の歌を万葉集の巻頭にしたのは、万葉歌にとって重要であり新しい時代をつくったということである。雄略の宮は桜井市脇本（泊瀬朝倉宮）にあったことは確実で、これも桜井市にとって誇るべきことである。暴君だが実行力があり国家の成立に貢献し、『日本書紀』では葛城山で狩猟をしたときに神（一言主）に会うという記述があり、これは葛城の神が支配していたということである。大王の地位をより高くするには、中国南朝の皇帝の承認が必

要で、その皇帝に関東から九州まで、さらに朝鮮半島全域まで支配しているという手紙を書く。ただ百済は南朝と友好関係にあり百済は支配できなかつたものの、広範囲の支配の証拠に埼玉県や熊本県の古墳に鉄剣が出ている。

日本武尊のモデルは雄略天皇であり、死ぬ前に伊賀の能煩野で読んだのが「やまとは国のまほろば」の歌であり、<やまと>は素晴らしいところであるということであるが、新しい解釈として、<こまれる>というのは守られている防備が整っているという意味でもあり敵が攻めてきたとき守りやすいということである。ただ風景が綺麗だけでなく、守られており心が落ち着くということで、これは卑弥呼も同じことを考えた。

### 【欽明天皇】

磯城島金刺宮は桜井市の水道局のあたりで、まとまった区域のことをシマといい、現在も反社会的勢力がよくこの言葉を使う。飛鳥は日本の国の始まりではなく桜井が始まりである。保田興重郎の再評価が必要で右に寄りすぎている部分もあるが、歴史による記述は素晴らしいところが多く桜井市にとって大事な人である。東アジアの中で発展するためには、古来の神を祭るだけでなく仏教の導入が大事であり、蘇我稲目が仏教導入をはかり物部氏と争い勝利した、これは蘇我氏自身も渡来系であるからという説もある。

### 【用明天皇】

病弱で即位後2年で亡くなった、聖徳太子の父親である。本居宣長が『菅笠日記』の中で土地の人から聞いたのは、用明天皇の最初の御陵は<長門>という場所で、長門の近くに磐余の池があった。『日本書紀』に磐余池をつくるという記述があり、若桜神社や上之宮遺跡の位置等を総合的に考えれば、磐余池は安倍木材団地の近くにあったと考えるのが合理的である。

これまで述べてきたように三輪山周辺は歴史的にとっても大事なところであり、〔三輪山周辺を世界遺産にという運動〕を始めてもらいたい。掘らないとわからないというのは遺産ではなく、目に見えるものが遺産であり、遠くから見ても形もきれいだし、ここで生まれた大和王権が連綿として、今日の日本が続いており、これほど大事な桜井が何故三輪山あたりを世界遺産にしようといつてこなかったのか不思議である。桜井が重要であり桜井が先にあっての飛鳥であるのに、飛鳥に大量の国費が投入されたのは、狭い場所だから多くの貴重なものが密集しており、日本のふるさとは飛鳥だという、今風の政治用語というイメージ操作があったようである。

世界遺産にするためには多くのハードルがあり、国や県も三輪山周辺の山辺の道に注目すべきであるとともに市役所の方々も努力し、さらに市民全体に世界遺産にするという気持ちが必要である。

(要約 事務局)